

# ESD

Education for Sustainable Development

私には未来をつくる力がある。  
持続可能な社会をつくるのは、  
「私」である。

「つくりかた」は、何通りもあるだろう。

学びあい、語り合い、  
「つくりかた」を決めていく。

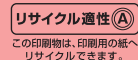
私たちには、選択と責任がある。

世界がつながった。  
地域がつながった。  
世代がつながった。

「ESD FOR ALL」。  
世界会議で、  
ボーターレスに確認された  
必要な学びあい。

動くしかない。  
もう先送りにはできない。  
サステナブルな社会への  
変化を生み出すために…。

発行：2015年3月  
発行者：環境省中部環境パートナーシップオフィス  
〒460-0003  
名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4F  
TEL 052-218-8605 FAX 052-218-8606  
E-mail office@epo-chubu.jp  
URL <http://www.epo-chubu.jp>  
デザイン・印刷：水谷印刷（株）



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

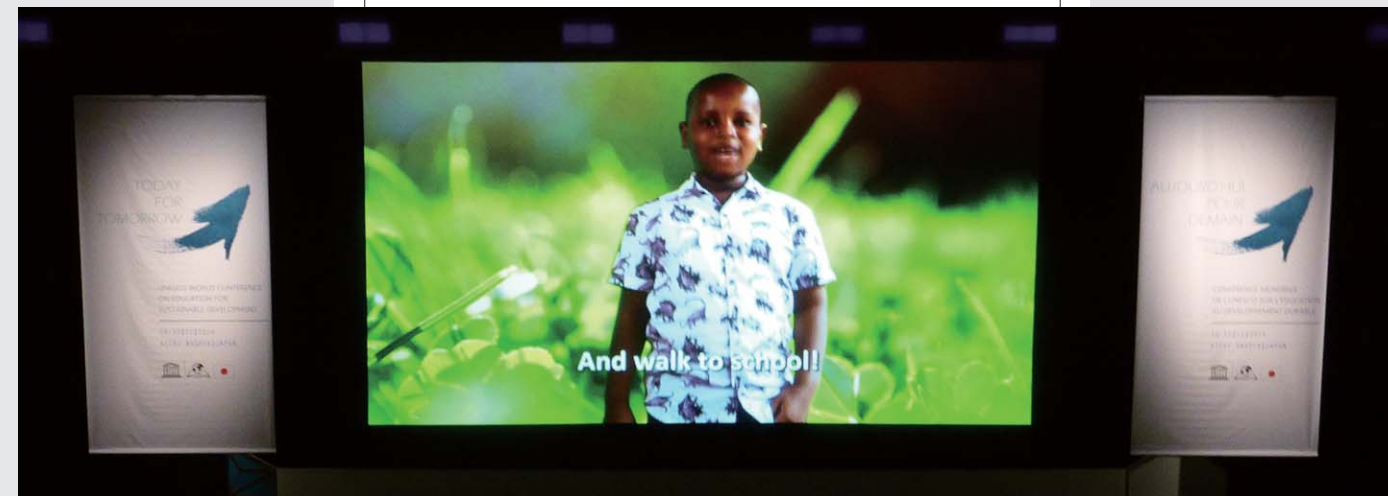
国連ESDの10年が終わった  
この10年の成果はなんだったんだろう

持続可能な社会をつくるための  
「学び合い、教育」  
この10年の成果は  
どう活かされていくのだろう

この10年でうみだしたこと  
これからつくりだしていくこと  
を届けたい

## Contents

- 国連「ESDの10年」が終わった
- ESDユネスコ世界会議の成果
- EPO中部「ESDの10年」
- みんなで「未来」を考えた
- みんなのESD会議
- 大人への提案
- ポスト2014 あなたはなにをしますか



# 国連「ESDの10年」が終わった

2005年にスタートした国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」。  
日本が提唱し、イニシアティブをとって進めてきたキャンペーンであり、  
その成果を共有し、次の展開を話し合う会合が、岡山市、愛知県名古屋市で開催された。

ESDに関するユネスコ世界会議 主催：ユネスコ、日本政府

## ■ステークホルダーの主たる会合 岡山市

2014年11月4日(火)～11月8日(土)参加者 約1,600名

1. ユネスコスクール世界大会
2. ユネスコESDユース・コンファレンス
3. 持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議

## ■閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 愛知県名古屋市

2014年11月10日(月)～12日(水)正式参加者 1,091名(153ヶ国)



国連ESDの10年を振り返って  
パネルディスカッション「国連ESDの10年の成果と課題」  
中央が、イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長

# 持続可能な未来に向けて今 学ぶ (Learning Today for a Sustainable Future)

1. 10年の成果から  
-何を達成できたか、また、どのような教訓が得られたか-
2. 万人にとってより良い未来を築くための教育の新たな方向性  
-ESDは質の高い教育の強化にどのように役に立つのか-
3. 持続可能な開発のための行動促進  
-ESDを通じて、持続可能性という課題にどのように取り組めるのか-
4. ポスト2014年のためのESDアジェンダの策定  
-私たちの共通の未来のための戦略とは-



ドラフトプログラム

## プログラム

11月10日(月)	11月11日(火)	11月12日(水)
<b>開会</b> ●開会挨拶 イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 皇太子殿下おことば 下村博文 文部科学大臣 大村秀章 愛知県知事 藩基文 国連事務総長 ビデオ・メッセージ アヒム・シュタイナー 国連環境計画 (UNEP) 事務局長 兼国連副事務総長 ビデオ・メッセージ ●キーンワードスピーチ ララ・ハスナ モロッコ王女 ●国連ESDの10年を振り返って ●国連ESDの10年に向けて ハイレベル円卓会議 ワークショップ・クラスターI 「行動の10年」を称えて	<b>全体会合II</b> ●2030年のESDの姿とは? ワークショップ・クラスターII 万人にとってよりよい未来を築くための教育の新たな方向性 ワークショップ・クラスターIII 持続可能な開発に向けた行動促進	<b>全体会合III</b> 教育は持続可能な開発のゲームチェンジャー? ワークショップIV 2014年以降のESDアジェンダの設定 閉会全体会合 ●全体報告者による発表 ●あいちなごや宣言の発表と採択 ●ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)開始の正式発表 ●GAP実施方針の発表 ●ESDあいちなごや子ども会議からのメッセージ発表 ●閉会の辞 丹羽秀樹 文部科学副大臣 チェン・タン ユネスコ教育担当事務局長補

参照 「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」の概要報告 (文部科学省国際統括官付) <http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339974.htm>

## ●全体会合II 「2030年のESDの姿とは？」

司会 アベジ・オグブイグエ氏  
(ANPEZ環境と開発センター/ナイジェリア)  
「目を閉じてみましょう。何秒間か。2030年の世界を想像してみましょう。何が思い浮かぶでしょうか。」

「スターを育てていくことができる。それを続けていかないといけない。そして、星がますます輝いていけるようにしないといけない。星が暗い夜を満ちし、星が輝き続けられるように。そして、夜が暗くならないように。」



## あいち・なごや宣言

ESDユネスコ世界会議の閉会全体会合で採択された。多様なステークホルダーがESDの取組をさらに強化し、そのための行動を起こすことを宣言している。全16項目で構成されている。

[http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya\\_Declaration\\_ja.pdf](http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_ja.pdf)

「この宣言は、人々が持続可能な開発の真っただ中にいることを認識するとともに、国連ESDの10年(2005年-2014年)の成果、つまりESDに関するユネスコ世界会議及び2014年11月4日から8日に岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合、すなわちユネスコスクール世界大会、ユネスコESDユース・コンファレンス、持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議、さらに地域の大いなる会合を含むその他の関連イベントや協議プロセスの審議に基づく。」(抜粋)



閉会全体会合

### ESDの10年の報告書

## Shaping the Future We Want

ユネスコはこの10年の総括として、報告書「Shaping the Future We Want」を作成した。この中には、ESD推進に向けた10の見解が掲載されている。

- ①教育システムが持続可能性を扱う
- ②持続可能な開発のアジェンダと教育のアジェンダは相互に関連
- ③政治的リーダーシップが重要な手段
- ④マルチステークホルダーのパートナーシップが特に効果的
- ⑤地域コミュニティが大きな役割を果たしつつある
- ⑥機関包括型アプローチがESDを推進
- ⑦ESDは双方向の、学び手主体の教育手法を促進
- ⑧ESDは公教育に組み込まれつつある
- ⑨ノンフォーマル、インフォーマルな教育が進展
- ⑩技術教育、職業教育と(現場の)訓練が持続可能な開発を推進



発行：ユネスコ

## グローバル・アクション・プログラム(GAP)

世界でESDを推進するための方針である「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」。

回国連総会で承認された。グローバル・アクション・プログラムの策定過程においては、世界各国にコミットメントを募集し、日本からも自治体、NGOなどが提出した。

<http://www.mext.go.jp/unesco/>



### 全体的な目標(ゴール)

持続可能な開発に向けた進展を加速するために、教育・学習のすべてのレベル・分野で行動を起こし拡大すること

#### 1 政策的支援(Policy support)

教育政策と持続可能な開発にかかわる政策に、ESDを位置づける政策は関係者と連携しながら参加型で作成する

#### 2 機関包括型アプローチ(Whole-institution approaches)

学習の内容や方法論だけでなく、学校や組織全体のビジョンや実際の活動などあらゆることがESDの理念に沿ったものとなるように取り組む

#### 3 教育者(Educators)

あらゆる教育者にESDの理解と実践を促す  
あらゆる教育者がファシリテーターとしての力をつける

#### 4 ユース(Youth)

ユースが中心となるESDの機会を充実させる  
変革の主体として必要となる参加型技法を教育プログラムに位置付ける

#### 5 地域コミュニティ(Local communities)

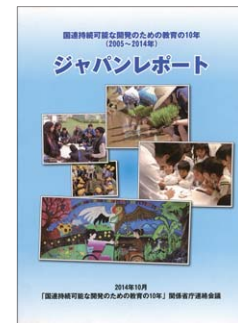
多様な主体の対話と協働により、持続可能な地域づくりに取り組む  
多様な主体でESDを進める地域のネットワークを育む

「ユネスコや政府が役割を果たさなければならないのはもちろんだが、何よりもステークホルダー主体でイニシアティブを進めていくことが重要だと思っている。草の根からのイニシアティブを広げていきたい。」  
スー・ヒャン・チョイ氏(ユネスコ教育局指導・学習・教育内容部長)  
出典 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議  
フォローアップ会合報告書(文部科学省)

### 国連持続可能な開発のための教育の10年(2005~2014年) ジャパンレポート

「国連ESDの10年」の提案国、また「ESDユネスコ世界会議」開催国である日本の、10年間のESDの取組を紹介した報告書である。国内実施計画(わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画)に基づく日本各地の、多様なステークホルダーによるESDの事例がまとめられている。

[http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/pdf/report\\_h261009.pdf](http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/pdf/report_h261009.pdf)



発行：「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議



## ステークホルダー ステートメント

### ESD推進のためのユネスコスクール宣言(ユネスコスクール岡山宣言)

ユネスコスクール世界大会-第6回ユネスコスクール全国大会 2014年11月8日採択

「ESDのビジョンを取り入れることで、子どもたちの学びのなかに、さまざまなつながりが生まれます。他者、世界の多様性、いのちある地球、自然、科学・技術、文化、過去および未来などと自己とのつながりです。こうしたつながりのなかで、学びは深まり、子どもたちの心のなかに生き続け、持続可能な未来を創造する力となります。その力は行動と協働を呼びおこす力です。そして、問い続け学び続ける力です。」(抜粋)

[http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya\\_Declaration\\_school\\_ja.pdf](http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_school_ja.pdf)

### ユネスコスクール世界大会Student(高校生)フォーラム共同宣言

Student(高校生)フォーラム 2014年11月7日採択

「自分たちの力は無力ではなく、限られてはいるが身近な存在と共に助け合い、持続可能性について学び合う機会を大切に、発信していきましょう  
 ・皆が同じ地球の一員としての自覚や、周りの環境・自然に関心を持ち、一人ひとりが責任のある行動を長期的な目線を持って具体的に実践していきましょう  
 ・多様な生活や文化、意見を共有し自国や相手のことのみにとどまらず、全てを尊重し、理解し合い刺激し合える関係性を私たちが中心となって築いていきましょう  
 ・これらのことを常に周りと共に意識し合い、はっきりとした自分の目標を持つと努力しましょう。  
 以上をもって、私達の共同宣言とします。」(抜粋)

[http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya\\_Declaration\\_student\\_ja.pdf](http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_student_ja.pdf)

### ユース・ステートメント

ユネスコESDユース・コンファレンス 2014年11月7日採択

「私たちは共に、持続可能で、強靭かつ平等な社会、一人ひとりが自らの目標に向かい進んでいける機会のある世界の実現に向けて立ち上がる。私たちは、持続可能な開発のための教育(ESD)がこのビジョンを実現するために根源的なものであると強く確信している。ESDは社会に活力を生み出す方法であり、私たちの直面する深刻な持続可能性に関する課題を機会に変えていくものであると信じている。ESDは教育に欠かすことのできない要素であり、ESDなしでは前進できないのである。」(抜粋)

[http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya\\_Declaration\\_youthstatement\\_ja.pdf](http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_youthstatement_ja.pdf)

### 2014年以降のRCEとESDに関する岡山宣言

持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議 2014年11月7日採択

「RCEのグローバル・ネットワークは、フォーマル教育とノンフォーマル教育のESDにおける更なる役割と、『国連ESDの10年』とそれ以降のRCEの変革における貢献を認め、他者を社会の一員として思いやり、多文化的・社会的・政策的・経済的環境の変化を目指すコミュニティおよび多様なステークホルダーの活性化に向けた活動の推進と主流化、拡大に尽力します。」(抜粋)

[http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/RCE\\_Declaration\\_ja.pdf](http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/RCE_Declaration_ja.pdf)



### 岡山コミットメント(約束)2014

ESD推進のための公民館-CLC国際会議 2014年10月11日

「誰もが排除されない持続可能な社会を築くため、教育の在りようを見直すときには、コミュニティに根ざした学びにこそ、要となる役割が与えられるべきである。公民館・CLC、そしてこれらに類似する施設・機関において営まれるコミュニティに根ざした学びは、各国の教育および学習の制度におけるすべての教育機会の提供者、および関係者と協働した取組となることによって、ESDおよび持続可能な開発のより広汎な目標を達成することにつながるのである。したがって、私たちは個人および集団の構成員という立場で、次に掲げる行動をとることを約束する。」(抜粋)

<http://www.city.okayama.jp/contents/000212065.pdf>

### 「ESDの10年・地球市民会議」からの提言

「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム <http://www.desd.jp/>

### 市民によるESD推進宣言

認定特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 [http://esd-j.org/j/documents/esd\\_citizen's\\_initiative.pdf](http://esd-j.org/j/documents/esd_citizen's_initiative.pdf)

### 企業によるESD宣言

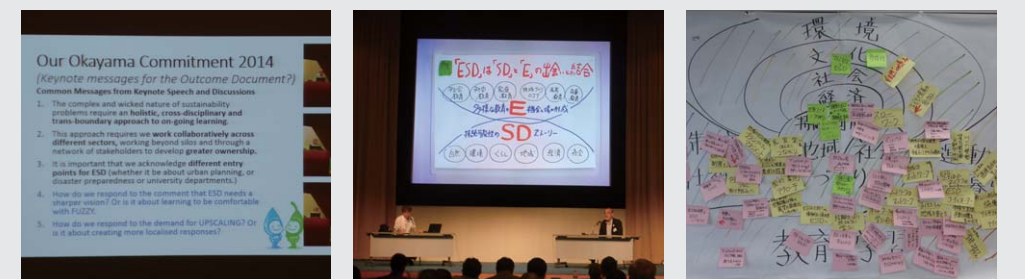
「ESD企業の集い」参加企業有志一同 [http://www.esd-j.org/j/documents/esdj\\_kigyo\\_ja\\_web.pdf](http://www.esd-j.org/j/documents/esdj_kigyo_ja_web.pdf)

### 持続可能な開発のための教育(ESD)政策への市民参加に関する提言

発起人団体：特定非営利活動法人開発教育協会 公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
 特定非営利活動法人さっぽろ自由学校「遊」

賛同団体：44団体(2014.12.18現在)

[http://dear.or.jp/org/advocacy2014\\_esd\\_final.pdf](http://dear.or.jp/org/advocacy2014_esd_final.pdf)



# EPO中部「ESDの10年」

2005年は、ESDの10年キャンペーン、そしてEPO中部がスタートした記念すべき年。  
EPO中部は、ESDを重要な柱として位置づけ事業展開してきました。  
仲間を増やし、つながりを強くし「ESDの大切さ」を伝えてきました。  
対話し、悩み、挑み続けた10年の歩みを紹介します。



毎年「ESDフォーラム」を開催しました  
ESDを伝える「BOOK」を10冊発行しました  
たくさんの団体、人々とコラボレーションしました

年度	活動内容
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東海地区ESDキックオフミーティング「もっと知りたい!もっと未来へ」(2005.12)</li> <li>●ESD-T(東海)発足</li> <li>●ESD国内実施計画意見交換会in北陸&amp;in中部開催</li> </ul> <p>◎「国連ESDの10年」スタート ◎「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議設置</p> 
2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>●名古屋国際センター受託事業 ESDシンポジウム「未来をつくる教育と経済～持続可能な社会とは?ESDの可能性～」(2006.3)</li> <li>●環境省ESD促進事業キックオフミーティング</li> <li>●ESD地域ミーティングin石川</li> <li>●ESD-J全国ミーティング2007</li> <li>●ESD事例調査</li> <li>●愛・地球博記念公園モリコロパークオープン記念事業「ESD書道」実施</li> <li>●中部RCE拠点に関する意見交換会議</li> <li>●なごや環境大学前期・後期共有講座「ESD講座」</li> </ul> <p>◎ESD国内実施計画策定</p> 
2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境省受託事業ESDフォーラム「かすがいKIZUNAプロジェクトお披露目フォーラム 私にできること」(2007.2)</li> <li>●環境省ESDモデル事業かすがいKIZUNA</li> <li>●ESD-J全国ミーティング2008参加</li> <li>●市民社会コーディネーター(ESDコーディネーター)講座</li> <li>●アースデイ愛知2007「ESDベビー」</li> <li>●中部エコライフフェア「ESD紙芝居&amp;ESD釣堀」</li> <li>●環境デーなごや出展「ESD占い」</li> <li>●(財)名古屋国際センターとの連携事業ワールド・コラボ・フェスタ2007ESDひろば企画・運営</li> <li>●中部ESD拠点会議に参加</li> <li>●なごや環境大学後期共有講座「がっつりESD講座」</li> </ul> 
2008	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDフォーラムin東海「未来をつくるESD～がっこうから ちいきから～」(2008.12)</li> <li>●かすがいKIZUNAミーティング・かすがいKIZUNAシンポジウム</li> <li>●地域ワークショップin東海with ESD</li> <li>●ESD主体基盤強化プロジェクト(ESD事例調査)</li> <li>●ESD教材づくりプロジェクト</li> <li>●(財)名古屋国際センターとの連携事業～10月ワールド・コラボ・フェスタ2008 ESDクイズ大会</li> <li>●安城市職員対象ESD研修に参加</li> <li>●中部ESD拠点協議会・中部ESD推進協議会に参加</li> <li>●なごや環境大学前期共有講座「つぶやきをカタチにしよう～ESD的学びをつくろう～」</li> <li>●愛知県総合教育センター「環境教育の在り方に関する研究」参加(～2009)</li> <li>★「未来をつくる「わたし」のESD提案Mission」発行</li> </ul> 

年度	活動内容
2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDフォーラム2009「現場に聴く、今、大切な学びあい」(2010.3)</li> <li>●ESD中部イニシアティブプロジェクト スタート</li> <li>★「SUSTAINABLE BOOK未来を創るための本」発行</li> <li>★「持続発展教育って何だ」発行</li> </ul> 
2010	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDフォーラム2010「持続可能性×教育」(2011.3)</li> <li>●愛知県総合教育センター「ESD(持続発展教育)を学校に取り入れる研究会」(～2012) 参加</li> <li>●東海・北陸ユネスコスクール交流会(2010～)</li> <li>★「生物多様性×持続可能な開発のための教育」発行</li> <li>★「OUR COMMONS」発行</li> </ul> <p>◎ESD国内実施計画改定 ◎環境教育促進法成立 ◎CBD COP10開催</p> 
2011	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDフォーラム2011「2014年に向けていかに進むか」(2011.9)</li> <li>●環境省平成23年度「国連ESDの10年」最終年合会に向けた地域におけるESD活動調査業務</li> </ul> 
2012	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDフォーラム2012「ESDに「本気」で取り組む」(2013.3)</li> <li>●「中部ESD拠点2014年プロジェクト」調査事業</li> <li>●愛知県「新しい公共支援事業」WeChubu支援</li> <li>●新しい公共フォーラム・あいち「未来を創り出す人になるために～ESDの大切さを語り合う」</li> <li>●ESD全国学びあいフォーラムinあいち・なごや</li> <li>●「中部ESD拠点2014プロジェクト「ESD2014に向けた意見交換会」」(～2014)</li> <li>●高校生ESDコンソーシアムin愛知</li> <li>●「持続可能な明日のつくりかた」制作支援</li> <li>★「未来をつくる「わたし」のESD Action」発行</li> </ul> 
2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDフォーラム2013「持続発展教育(ESD)に本気で取り組む(2014.1)</li> <li>◆平成25年度環境省「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」</li> <li>●ESDイヤーキックオフイベント第2部地球市民村「ラーニング・プログラム」『未来をつくる授業』開催</li> <li>●愛知県自治体職員のためのESDセミナー 協力参加</li> <li>●高校生ESDコンソーシアムin愛知</li> <li>●あいち・なごやESDフェスタ2013出展</li> <li>★「ESD Book」発行</li> </ul> 
2014	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDフォーラム2014「地域に何を残し、今後どう動くか」(2014.6)</li> <li>●ESDフォーラム2014「企業の環境教育からESDへ」(2014.10)</li> <li>◆平成26年度環境省「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」</li> <li>◆ESDユネスコ世界会議併催イベントESD交流セミナー「みんなのESD会議～この10年の活かしかた～」(2014.11)</li> <li>●ESD写真展&amp;トークセッションwith宮嶋英一氏「やさしい未来に…from WonderLAND」(8/5～8/17)</li> <li>●ESDユネスコ世界会議報告会inあいち・なごや～地域が支えるESD～</li> <li>●ESDユネスコ世界会議報告会in長野～地域が支えるESD～</li> <li>●高校生ESDコンソーシアムin愛知</li> <li>●ESDユネスコ世界会議半年前イベントあいち・なごやESDフェスタ出展</li> <li>●ESDユネスコ世界会議併催イベントあいち・なごやESD交流フェスタ出展</li> <li>●ESDユネスコ世界会議併催イベントパネル展示</li> <li>★「やさしい未来に…」発行</li> <li>★「これからのESD実践への提案「自己肯定感を育む環境をつくる」」発行(英訳版・概要版・本編)</li> <li>★「ESD BOOKLET」発行</li> </ul> <p>◎ESDユネスコ世界会議「あいち・なごや宣言」採択「グローバル・アクション・プログラム」発表 ◎持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議フォローアップ会合(文部科学省)</p> 

## ★ESDブックレット10冊





持続可能な地域づくりを担う人材育成事業

みんなで「地域の未来」を考えた



■金沢市立泉中学校  
**「金沢の環境が育んだ食」**  
 金沢の環境が育んだ食、「かぶら寿し」  
 作り手に出会い、伝統を味わう  
 地域の風土が育む食の尊さに気づき、どう守り伝えるかを考える  
[http://www.geoc.jp/esd/program/detail\\_r19](http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r19)



■金沢市立三馬小学校  
**「つながりに気づく、つながりを築く  
 ～ふるさと伏見川を守り続けるためには～」**  
 学校で毎年実施しているサケの放流  
 「伏見川にサケを放流しても大丈夫か？」をテーマに  
 人間と川、川の生き物とのつながりに気づき、ふるさと伏見川を  
 守り続けるにはどうしたらよいか考え、行動する



■坂井市立鳴鹿小学校  
**「ビオトープの再生を通して、地域の特性や持続可能性を考えよう」**  
 荒廃してしまったビオトープ再生に児童、教員、地域の方と取り組むことにより、  
 地域の自然について理解し、これからの地域について考える  
[http://www.geoc.jp/esd/program/detail\\_r20](http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r20)



■学校法人嶺南学園敦賀気比高等学校附属中学校  
**「100年後の敦賀で世界遺産候補は何か」**  
 ふるさと敦賀の世界遺産候補について考えることにより、  
 ふるさとの魅力を再発見し、未来の敦賀について考える



■名張市立薦原小学校  
**「見つめよう わたしたちの自然～ギフチョウから考える薦原の自然と未来～」**  
 地元に生息する天然記念物「ギフチョウ」の観察などを地域の協力を得ながら実施  
 ギフチョウや里山の大切さについて理解を深め、人と自然の共存について  
 「自分事」として考える  
[http://www.geoc.jp/esd/program/detail\\_r24](http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r24)



■学校法人津田学園津田学園小学校  
**「水辺の環境調査」**  
 学校近くの嘉例川の上流・中流・下流での調査活動を通して、  
 自分の生活との川とのつながりを知り、生きものの暮らす場所について考える



■富山市立古沢小学校  
**「ほくらの里山「呉羽山」」**  
 学校近くの自然豊かな「呉羽丘陵」、学習を通して里山を知り、活動している人に出会い、  
 体験することで、地域に自主的に働きかけ、呉羽山を近しく感じる  
[http://www.geoc.jp/esd/program/detail\\_r18](http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r18)



■富山市立堀川小学校  
**「市電通りのたからを見つけよう」**  
 学校近くの市電通りの「たから」を見つけることをテーマに  
 町探検に出掛ける。そして、「たから」の探究を通して自信  
 まんまんに自分や自分のたからを思う児童を育む

■松本市立源池小学校  
**「信州の山の中で暮らし、歴史、文化、自然を学ぶ  
 ～里山から山岳の中で～」**  
 山に囲まれた地域に暮らしているながら、「山」を身近に感じ  
 られない児童。奥山、里山をテーマに山と人間のつながり、  
 自分との暮らしのつながりや自然と人間の共生について話合う  
[http://www.geoc.jp/esd/program/detail\\_r21](http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r21)



■松本市立会田中学校  
**「地域の自然を見つめよう」**  
 学校登山や地域の自然環境についての体験型の学びを通して、  
 当たり前にある地域の自然を見つめ直し、地域への愛着を深め、  
 関わっていく意欲を育む



■岐阜市立長森南中学校  
**「温暖化・エネルギーについて学び、何ができるか考えよう」**  
 地球温暖化、エネルギー問題について知り、調べて考え、  
 体験することで自分事にし、行動に移す意欲を育む  
[http://www.geoc.jp/esd/program/detail\\_r22](http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r22)



■羽島市立正木小学校  
**「人にやさしく 自然にやさしく～環境といのち～」**  
 地球温暖化について理解し、自分の生活を見直す  
 将来の地球について自分ができることを考え、実践し、  
 発表することを繰り返し、これからも続ける意欲を育む

■東浦町立緒川小学校  
**「環境問題について考え、地球にやさしい活動をしよう」**  
 学校のエコ調査に取り組み、学校の「エコじまん」、  
 「ざんねんエコ」を見つける。「ざんねんエコ」を改善する  
 ためになにができるのか、実践し、発表する  
[http://www.geoc.jp/esd/program/detail\\_r23](http://www.geoc.jp/esd/program/detail_r23)



■名古屋市立八熊小学校  
**「季節と堀川の生物」**  
 学校近くの人工につくられた堀川と生物多様性に富んだ  
 藤前干潟の観察活動を通して、生きものの生息環境を考える



中部7県には、各地域の資源を教材にしたESDに積極的に取り組む学校や教育委員会、ESDを推進する教育機関やNPO等が存在しています。子どもも大人も、学校も地域も、それぞれの役割と強みを活かしながら、ボーダーレスに学びあう仕組みづくりを実現できるポテンシャルがあります。  
 環境省が2013年度にスタートさせた本事業は、ESDモデルプログラムの実践を通じて、小中学校と地域が協働しやすいスキームをつくり、多様なステークホルダーによるESDの実践、実

践するしくみづくり、「つなぐ」、「つくる」、「つたえる」を可能にします。  
 大切にしていることは、「参加」と「対話」。地域に愛着を持つことを重視し、体験を取り入れ、実践を学びに活かす手法も取り入れています。  
 ●詳細は <http://www.epo-chubu.jp>  
 ●全ての授業に映像教材を活用しています。  
[http://chubu.env.go.jp/to\\_2014/0507a.html](http://chubu.env.go.jp/to_2014/0507a.html)

# 子どもも、教員も、みんなが気づいた

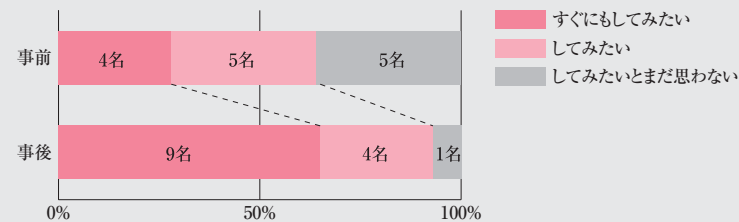
この事業を通してESD授業プログラムを実施した学校、教員、授業を受けた子ども達、一緒に授業づくりに携わった地域の人々、それぞれに「変化」がありました。どんな変化があったのでしょうか。みなさんに協力いただいたアンケートからひも解きました。

## 子どもの思い 子ども達を対象に授業実施の前後にアンケートを行いました。

**Q. 里山を守る活動をしてみたいになりましたか。** 2013年度 富山市立古沢小学校 4年生 14名

「してみたい子ども」(すぐにも含) 事前 64%  
事後 93%

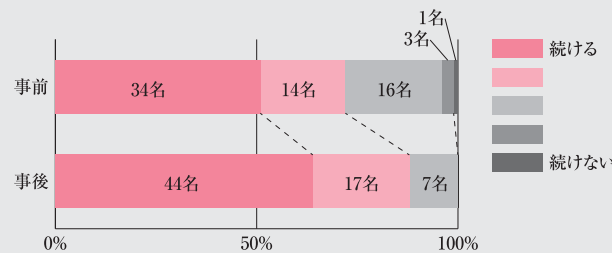
事前は、「里山はすごくいいところだと思った」、「守るかどうがおもしろそう」、「人を守るためにやってみたくて、少しやりたくない気持ちがある」などの声。事後は、「竹をきって、しょく物に太陽の日をてらせて大きくそだってほしい」「きんたろうくらぶの人たちがしていることをしたい」など。学習を自分事に捉え、行動意欲も見られ、里山を近く感じる事ができたことがうかがえた。



**Q. 省エネ活動を続けますか。** 2014年度 羽島市立正木小学校 5年生 事前68名、事後69名(無回答1名)

「続ける子ども」 事前 71%  
事後 88%

事前と事後を比較すると、省エネ活動を続けるという児童が増えている。学習、実践、発表を繰り返したことで、「エコクッキングを週に1、2回する」、「宣言をしたから続ける」、「使っていない部屋の電気を消す」など責任を持って、続けていく意欲が育まれたようだ。



**教員の気づき** 本事業に参加した教員を対象にアンケートを行いました。

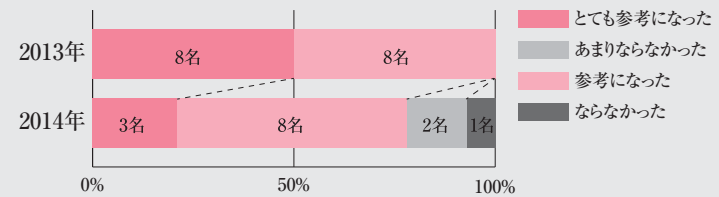
**Q. ESD授業づくりの参考になりましたか。** 回答者数：2013年度 16名、2014年度 14名

参考になった 2013年度 100%  
2014年度 79%

2014年度は3名の方から参考にならなかった(あまり含)という回答を得た。その理由は、「これまでの取り組みと大きく変わらなかった」「まだ、授業に取り入れることができないが、何か知ら参考にできると思います」といった内容だった。

### 参考になったこと

- 基本的には現状で起きていることを児童に伝え、その後、みんなで考えるということに重点を置いた。将来の自然の姿を想像することで、自分たちが何をすべきかということを考える事を目標とした。
- ESDがどこかにあってそれにたどり着くのではなく、今自分たちの暮らす地域が持続発展するためにはどのようなことが必要なのかを意識して授業するように努めた。
- 普段の授業でも、子どもたちにゆさぶりをかけたり、常に疑問をもつような資料を提示したりして、児童の事象への意識の連続が図られるようにした。



## 地域の声 期待と可能性を込めて

中部7県各2校計14校でESD授業づくりと、実践を行ってきました。特徴は、ESD実践普及の枠組みづくりや評価を検討する、各県の専門家で構成した「形成推進委員会」と、各県のESD授業づくりや実施を推進する「ワーキンググループ」の存在です。形成推進委員会では、各県の取組の情報共有や共通課題についての協議を行い、ワーキンググループでは、地域のステークホルダーを交えて、よりよいESD授業づくりのために教員との熱い検討がなされました。

地域に設置したワーキンググループでの意見交換が一番の成果です。地域の様々な方と多様な視点から、授業について意見交換をし、ブラッシュアップしていくことで、授業も教員も児童も地域も変わることができます。

NPOやNGOの活躍に期待すると共に、既存の社会教育施設、関係団体(公民館・子ども会・PTA)、野外教育施設がESDに取り組みするような戦略が必要です。学校のESDを支え、更に充実することにもつながります。

地域住民が教材を作る過程で参加し、学校カリキュラムを理解すると同時に、学校が地域課題を理解し、カリキュラムに反映するという双方向の情報交換ができることは、これからの地域社会形成においてとても重要な仕組みです。

ESDを教育活動の核として、学校教育の取組の中心に据えることで、学校の活性化や改革に力を与えることができる可能性があることを実感しました。

1人の教員が悩んで考えるだけでなく、様々な専門家から助言を得る機会があることにより、カリキュラムの完成度を高めることができました。教員が地域にある様々な資源を認識するようになったこと評価します。どう地域に定着させるかは大きな課題です。

若い先生方には大きな可能性があります。子ども達や同僚と共に学びながら成長している様子が見えます。



ESDユネスコ世界会議・併催イベント ESD交流セミナー  
**みんなのESD会議 この10年の活かしかた**

**Table1 校長先生サミット**

**テーマ「ESDに取り組んで・・・」**

**「ESDとは、人として生きる構えである」高木 要志男氏**

本校の教育経営の柱は、「子どもの暮らしづくり」である。いろいろな子どもたちが毎日の生活を自分の手でどう作り上げていくのかを大事にしている。暮らしづくりの主体は子どもであり、そこに個性が発揮される。教育経営の中にどうESDを位置付けるか。「個の自立と協働」がキーワードである。人、社会、自然など全てのものとの関わりやつながりの中で考え、行動していくことを大事にしている。子どもたちの暮らしづくりの一環としてESDを実践し、人として生きる構えを学ばせたい。

**「子どもも教員も、地域も意欲的になる」谷戸 実氏**

子どもたちの学習意欲が高まってきたと教員は話している。それと共に思考力も高まってきた。何より、教員が子どもたちの意欲に引っ張られて、「もっとこんなことを考えさせたい」と地域に目を向けながら授業開発をしている。地域も協力的であり、今まで以上に協力をしていただいている。ESDという一つの目標、方針ができて、それに向かってみんなが一緒にやっという思いと動きができてきた。

**「未来に左右されるのではなく、未来を切り拓く子どもたちに育ていく」伴 浩人氏**

本校のESDには2つのキーワードがある。1つは「足元からのESD」。その中に、「今ある教育課程を活用していくことと、「地域の教育資源を活用することがある。地域の教育資源については今までも活用してきたが、もう一度整理し直し、見直してその価値を再認識して使っていくと進めてきた。もう1つのキーワードは「ねらいを定めてESD」。こんな子どもになってほしいという力、「関わる力、問い続ける力、行動に移す力」の3つを設定した。3つの力がスパイラル的にずっと伸びていく。すると、行動に移す力がどんどん太くなっていく。未来に左右されるのではなく、未来を切り拓く子どもたちに育ていく。そんな考えのもとESDを進めている。

**「教員も、子どもも、地域も、学びのフィールドも広がった」前 義隆氏**

ESDに取り組んだ効果は次のとおり。1つ目は、教師の指導の幅が広がった。学校周辺の環境を教材化しようと外へ出ていろいろな目で教材を探すようになった。2つ目は、子どもの自然に対する視野が広がった。3つ目は、地域のつながりであり、地域に出かけて地域の人にいろいろ教えてもらったり、子どもは自分たちの学んだことを披露したりと活動が広がっている。4つ目は、学びのフィールドの広がりであり、座学ではなく外に出ることを大事にするようになった。

**みんなのESD会議 この10年の活かしかた Table1**

日時：2014年11月12日(水) 11:30～13:00

場所：名古屋国際会議場レセプションB

参加者：109名 (Table.1と2併せて)

**【出演者】**

高木要志男氏(富山県富山市立堀川小学校校長)

谷戸 実氏(三重県名張市立鷹原小学校校長)

伴 浩人氏(愛知県東浦町立緒川小学校校長)

前 義隆氏(福井県坂井市立立鹿鹿小学校校長)

阿部 義澄氏(愛媛県新居浜市教育委員会教育長)

池端 弘久氏(金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課

キゴ山少年自然の家館長/前校長)

鈴木 克徳氏(金沢大学環境保全センター長・教授)



**【校長先生のアドバイス!】 テーマ「ESDを浸透させるために・・・」**

**高木先生**

●教育委員会には学校と関係者との橋渡し役を担っていただけるとありがたい。学校が他校や地域との交流、市や県の環境政策に携わる部局や、NPO等との関係づくりも積極的に進めていくとよい

**谷戸先生**

●学校が何かしようとしたときに、コーディネートをする人が非常に重要になる。また、どう探すが重要である(現状、公民館の館長や主事が担っている)  
 ●ESDは一つの明確な方向性を持った教育であり、それが未来につながっていくという点をPRする

**伴先生**

●教職員が、先人の様々な実践例を知って、実践の「面白さ(O)」を知る  
 ●「がけっぶち(GA)」を知る。取り返しのつかないような世界になっていくことを知識として、情報としてたくさん共有する  
 ●輪(WA)、チームで実践の取り組みを進める。一人で考えてはなかなか進まない。学年でPLAN-DO-SEEを進めていく

**前先生**

●ESDを教育活動全体に埋め込ませない。ESDを意識化させるために議論を重ね、核となる活動を決めて、担任が授業改善、工夫をする  
 ●ESDコーナーをつくり、見える化をする  
 ●強力なスペシャリストの育成、リーダーが必要。リーダーが担任におろし、全員で共有して、一人抜けても新たな後継者ができるという経営が必要  
 ●教員がやってきた実践をポートフォリオにしてすべて残す  
 ●地域に発信する。地域に発信をすれば地域の協力も得やすくなる。地域の協力がなければESDは実践できない  
 ●活動を積み上げる。前の学年の実践に新しいものを積み上げていくことが必要

**「教育委員会としてしなければいけないこと」阿部 義澄氏**

教育委員会としてトップダウンですべきこともあれば、ボトムアップですべきことも考えてやっていく。学校の力だけ、教育委員会の力だけではどうしたってできない。いろいろな団体の支援があり、今の新居浜市の教育がある。そういった中で、今後教育委員会としてしなければいけないことは、「学校格差」をなくすこと。2013年度は、教務主任格をESD主任にした。ESD主任は将来の新居浜市の教育を支える管理職になる人材を選ぶことを教育委員会から校長に指示した。2015年度は、ESD主任を置き、また何を学ばないといけないかを協議するESD主任の統一した組織を設置したい。

**「評価と、教科の下支え、そして体験の見直し」池端 弘久氏**

次のステージとして、1つ目は、子どもの姿を読み解いて「やってよかった」「力がついた」と子どもたちが実感し、先生もまた、「やりがいのあるESD」と評価できることである。2つ目は、「探究的に学習を進めるためには、教科の下支えが重要ということである。その意味でも、教科の学習と総合の授業スタイルが一貫した形で実践されることが大切である。3つ目は、今一度、体験的な活動を中核にした、子どもたちに力を付ける授業の在り方を根本的に見直すことである。子どもたちの体験の状況が家庭や、地域で、体験をしている率が少なくなっている。子どもたちの体験が学校頼みになっている傾向からも、改めて考えることが求められている。

**「学校を誰が支えるか」鈴木 克徳氏**

ESDを継続して取り組める仕組みをいかに作るかが重要である。教育委員会がしっかりサポートをするケース、地域のユネスコ協会、NPO/NGO、EPOや大学のような組織が支援するケースもある。どちらにしろ、学校でESDを進めていく際には、校長先生のイニシアティブが非常に重要である。また、地域の人たちとのつながりもキーとなる。教員が異動しても、地域の人が関わることで続けている事例が数多くある。教育委員会や大学、NPO/NGO、ユネスコスクール、校長会、教頭会、先生同士のつながり等、うまく活用できるものがある。

ESDユネスコ世界会議・併催イベント ESD交流セミナー  
みんなのESD会議 この10年の活かしかた

Table2 「自己肯定感」を育む環境をつくる

なぜ、「自己肯定感」をテーマにしたのか

2012年から持続可能な社会をつくりだすために、子どもたちにどのような教育が必要かを、ESDに取り組むNPO/NGO、教員とともに勉強会や意見交換を重ねてきた。

ESDが目指す、人権、環境、平和などが守られる持続可能なより良い未来の実現には、現状を知る、考える、気づく、社会に関わる、問題解決に関わるために動くといった1人1人の行動の変容が不可欠である。

「わたし、あなた、みんなに関わる力」を育むことで、自立と共生が実現した未来が拓かれる。

その一番コアとなる「自己肯定感」をキーワードにした。子どもの自己肯定感の現状やその背景を把握し、自己肯定感の阻害要因と育む要因を研究、分析。そして、メンバーの活動が自己肯定感を育むためにどのように役立ってきたのかを振り返り、まとめ、一般化し、提案書を作成した。

平成24～26年度 地球環境基金助成事業「中部ESD拠点2014プロジェクト「ESDユネスコ世界会議」に向けた取り組み」の一環として行った。

■提案書「これからのESD実践への提案 自己肯定感を育む環境をつくる」

この提案書には、3つのビジョン、8つのミッション、15のアクションを掲載しています。ここでは15のアクションを紹介します。

●15のアクション(行動)

- ①「よさ」を見つける機会をつくる。
- ②できていることをほめ、失敗からも学ぶ機会をつくる。
- ③子どもたちに「まかせる」(子ども主体の)機会をつくる。
- ④考えを受けとめ、尊重による「待つ」機会をつくる。
- ⑤「未来志向の生き方」学習・活動に取り組む。
- ⑥自分の適性や価値に気づく機会を提供する。
- ⑦学びたいテーマや課題の学習を支援する。
- ⑧発達段階に応じた、ソーシャルスキルを高める実践を行う。
- ⑨関わる力を育む参加型学習手法を授業(活動)カリキュラムに取り入れる。
- ⑩参加型による学級経営を行う。
- ⑪参加型の学校経営、会議等を行う。
- ⑫世界に触れ、世界とつながる参加型ワークショップを行う。
- ⑬持続可能な未来につながるフェアトレード商品の販売体験をすすめる。
- ⑭NGO/NPOでのインターン研修や活動参加をすすめる。
- ⑮家庭、学校、地域の協働により、社会全体で子どもの育ちを支える。

●ご希望の方はEPO中部まで office@epo-chubu.jp



テーマ「自己肯定感を育む環境をつくるために、なにをするか」

- キーワードは「言葉」。  
子どもたちの「いい言葉」をどんどん出し、重ね、お互いを認め合うことが、「自己肯定感」の育みに必要。
- 自己肯定感を育むには、学校だけ、家庭だけではなく、ネットワークが必要。  
「協働」こそが、重要である。
- 「大人」の自己肯定感も育むことが大切。
- 子どもと大人の「接点」をつくる。  
今ある施設を使い、いろいろな人を「つなぐ場」が大切である。「失敗」から学ぶ。
- 小中高生こそ自己肯定感を高めるための、子どもを信じる、考えさせる、高齢者による全面受容などの取組が必要である。個人を大切にす風土や文化づくりを目指し、社会や国民性を変えていくことが必要である。
- 自分が立てた課題を自分で乗り越えていく。その積み重ねで、自分の可能性を伸ばすことが自己肯定感を高める。海外との交流や地域とつながり、いろいろな人に出会い、こういう生き方があるを知る。みんなが言葉を選んで話す。自分をたくさん表現していく。



ゲストからのメッセージ



子どもたちの自尊感情が非常に低いことからESDに取り組んできました。今の子どもたちはいろいろな意味で社会とのつながりが切れています。切れているつながりをつなぎ直すことがESDではないかと考え、ESDに取り組んで来ました。生徒の自尊感情の変化を大学で調査・分析してもらったところ、ESDの取組は自尊感情を高める有効な学びであることがわかりました。

大塚 明氏(伊豆市教育委員会心の教室相談員)



全ての子どもに生きる力が必要です。学校の役割は、学習指導要領に沿って、生きる力を育む実践を積み重ねていくこと、「人間形成」が大切なのです。その中こそ自己肯定感が含まれてくると思います。自分を見つめること。特に、共感して生きるということが子どもにとっては非常に大事なことです。自尊感情を、自己肯定感を高めるには、「まかせる」授業が重要です。子どもたちが話し合いを進める中でいろいろな解決方法や方向性を見出していく。「まかせる」んです。また、学年をまたいで自己肯定感を育むエクササイズを学校で積み重ねていくことが大切です。

前野 伸夫氏(あま市立甚目寺小学校 前校長)

みんなのESD会議 この10年の活かしかた Table2

日時：2014年11月12日(水) 11:30～13:00

場所：名古屋国際会議場レセプションB 参加者：109名(※Table.1と2併せて)

[コメンテーター]

大塚 明氏(伊豆市教育委員会心の教室 相談員)

前野伸夫氏(あま市立甚目寺小学校 前校長)

[出演者]

青野桐子氏(NPO法人こどもNPO事務局長)/伊沢令子氏(NPO法人NIED・国際理解教育センター代表理事)

川合眞二氏(NPO法人NIED・国際理解教育センター事務局長)/白上昌子氏(NPO法人アスクネット代表理事)

滝 栄一氏(NPO法人名古屋NGOセンター)/土井ゆきこ氏(名古屋をフェアトレードタウンにしよう会)





## ESDあいち・なごや子ども会議 からのメッセージ

私たちが考える「持続可能な社会」は、「未来を考え、お互いを思いやり、人間だけでなくすべての生き物が共に、幸せに生きる社会」です。差別も不安もなく、平和で安全に、楽しく生活できる社会にしたいです。しかし、今、私たちが生きている社会は、資源やエネルギーを無駄づかいし、自然環境を破壊しています。世界のどこかで戦争がおこっています。地域の伝統文化を伝えることが難しくなっています。防災対策をしている人が限られています。たくさん問題があって、「持続可能な社会」とは言えません。そして、こういった問題は、すべて、人とつながっていることがわかりました。

「持続可能な社会」づくりを難しくしているのは、とどまることを知らない人間の欲、自分勝手さ、わがままな気持ち、人々の意識や関心が低く、知識が少ないこと なのです。

いろいろな問題の原因をつくっているのは人間ですが、それを解決していくのも人間です。「持続可能な社会」をつくるために、私たちは、次のことを実行します。

- まだ知らないことがあるので、もっと現状を学びます。調べ、考え、参加します。
- たくさんの人に知ってもらい必要があるので、ESD を学校や地域の人に伝えます。
- 身近に出来ることは提案し、行動し、実行します。
- 命を大切に、人と人とのつながりを深め、交流します。

ここで、子ども会議から、大人の方々に、次のことを提案します。

- 戦争をしないでください。武力で解決しようとししないでください。
- 世界の人々が協力して、どの国の人も教育が受けられる環境をつくってください。
- 子ども会議のような、学び、考え、話せる場をもっとつくってください。
- 大人も ESD に興味を持って参加してください。
- 知識も経験もある大人が、もっと私たちに教えてください。
- 多くの人にESDを広めてください。ESDの考え方を広めて、今ある法律を変えてください。
- 地域の人たちともっと交流をしてください。
- 未来に目を向けて考えてください。当たり前のことを大切にしてほしいのです。
- 子どもができて大人にできないわけがないと思います。

子ども会議の私たちが考える「ESD」とは、「未来を考えて、行動すること」です。みんなが ESD の主人公となって、今、これから、未来に向かって、ESDに取り組んでいきます。ほくは、リオ・サミットのセパン・ズキさんのスピーチを見ました。これを見てほくは、22年前と今が何も変わっていないじゃないか、ということを思いました。私たちは本気です。大人の方にも、本気になってESDに取り組んでください。ESDは、この世界の未来にとって一番大切なものなのではないでしょうか。(ESDユネスコ世界会議閉会全体会合でのスピーチ)

2014年11月12日 ESD あいち・なごや子ども会議 参加者一同

ESD ユネスコ世界会議 閉会全体会合でのスピーチ  
<http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/index.html>



# ポスト2014 「あなたはなにをしますか」

持続可能な社会の実現にはまだ遠いようだ。  
近づけるために、どのような学び合い、教育を、どのように実践しますか。  
ESD ユネスコ世界会議報告会の参加者のみなさんに質問をしました。

- 子ども一人ひとりにしっかり向き合い一人ひとりが、自分の無限の可能性を信じて自分を発揮しようとするような子育てや教育を広めていきたい  
そのことが世界平和、ESDを広めることにつながると思う
- 大学教育でESDを実践する。ユース支援・NPO等の参加を企画する
- いろいろな人が気軽に話し合える場ができれば
- 地域のSDの課題に共に取り組む学校や地域を応援する。ESDを実践する教育機関として充実する

- なごや環境学習行動計画(仮称)の策定
- コミセンでESD(人権教育)
- 地域力、公民館活動において大人・子どもにESDを説明、広めたい
- 環境学習情報センターの講座をESDの視点から見直したい。何が足りないのか
- 楽しい環境学習。みんなが参加する学習
- ぎふ環境大学をつくりたい  
①ネットワークづくり ②知恵の共有 ③協働  
1人ではできない!

- 生きものが安心して住める自然環境の保全について皆で学び教え合い行動したい
- 2015年以降も、もっとも地域とつながる! 小・中学校で子どもたちがどう地域とかかわり、つながっていくか考えているので、さらに発展させるアイデアを見つける、生み出す
- 市民活動の中にESDをどう取り込むか。NPOとESD、マークデザイン
- ESDを含めて実践力・行動力を持つ教員を養成する。ESDとは何かを伝える
- 環境大学。ふつうの人へESDを伝えたい

- ユース活動として地域復興のリーダーシップを取ってもらおう  
そのためにユネスコ協会発行のESDボランティアパスポートを活用してのボランティア活動を行う
- 話し合いの方法を伝え、場を作る
- 知識を行動に移せない方に対する動機づけ
- 持続可能な社会の実現。こどもたち(次世代)にサイエンスへの関心を持ってもらえるように取組みます!
- 大人の中に入っていきたい

## ESDユネスコ世界会議報告会inあいちなごや〜地域が支えるESD

日 時: 2015年3月6日(金)14:00~16:30  
場 所: ウィルあいち1F セミナールーム1・2  
参加者: 45名  
主 催: 環境省中部地方環境事務所 環境省中部環境パートナーシップオフィス

- ESDのプログラム、人づくり、場づくり  
子ども会議のメッセージを伝えていく
- 将来Missionを持った仲間を増やして社会人になる
- 小・中学生に対し、ESDという言葉を使わずにESDを推進する
- ESDというものがまだよく分かっていないので、知ることから始める  
さらに自分たちの活動を交えて、フリーペーパーを通して発信する
- ものづくり愛知を支える港。名古屋港において、どのようにすこしやすい環境を整えるべきか、日々の暮らしをどう考えるかを考えたい
- 身近な自然環境を知る
- 社会教育で地域コミュニティを活性化するモデルをつくる!  
ユネスコスクール。公民館。学校とシニア世代
- 中部大学が行っているような講義としてESDをカリキュラムに加えることを他大学に
- 幼・小・中・高・大の接続  
大学におけるESDのコアカリキュラム化  
→ユースのサポート、育成、活躍の場合イベントからの脱却  
→ESDを当たり前
- ユースと子どもをつなぐ  
ユースと名古屋と被災地をつなぐ
- 同世代のネットワーク強化
- Global Citizenship Education Programを  
世界各地で実践。ESD program開発
- ユース世代といっしょに持続可能な地域を

- ESDシンポ 子ども姿から家庭・社会を巻き込む  
ホームページ+パンフ 団結と拡大を!
- 一般講座を行う中で「ESDベーシック」「ワンポイントESD」「人間の生存基盤」として食料・エネルギー・気候変動・バーチャルウォーターを断片的に伝える
- ESDハンドブックを活用したい。講義等
- 「ストップ温暖化教室」の推進。持続可能な未来社会
- 高校生ESDコンソーシアムの開催支援。なごや環境大学への参加

### Information

#### 文部科学省はこう取り組む

文部科学省は世界会議を受けて、各都道府県と指定都市教育委員会委員長、各都道府県知事等に向けて、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進について(依頼)を、発出しました。(2014年12月8日)

1. ESDは持続可能な社会の構築を目指して、自律的に考え、行動に移す力を養う教育活動であり、あらゆる教育・学習の側面に取り入れられるべきであること
2. ESDの推進に当たっては、教員が重要な役割を果たすこと
3. ESDの推進に当たっては、若者の参加を促進することが重要であること
4. ESDの実践の場として、地域が重要であること
5. ESDは新しい時代に必要とされる批判的思考や問題解決力等の資質、能力を育成するものである